

令和4年度 全国納税貯蓄組合連合会会長賞

支え合いの輪

北九州市立洞北中学校 三年 久保田 凛

御年九十二歳の曾祖父、御年八十八歳の曾祖母。まだまだ元気な二人を家族で介護している。今でこそ、介護保険の恩恵を受け二人共快適な生活をしているが、一年前までは大変だった。その実体験を書いていきたいと思う。

二人はとても頑固で最高のコンビネーションを持っている。一人が嫌がる事は二人共、満場一致の嫌。ケアマネージャーさんの説得も虚しくデイサービスに行くのは気まぐれだし、介護ベッドも

「日本人やから布団が良い。」

と、頑なに拒み和室に布団という昔ながらのスタイルで生活していた。何も聞く耳を持たず、頑固に、自由に、元気に、気ままに。

転機となったのは、夏のうだるような暑さ

「エアコンは勿体無い、扇風機で上等。」

そう言って私達がつけたエアコンを、すかさず消す。オン、オフ。オン、オフ。これを一日何十回と繰り返し、とうとう軽度の熱中症になり、二週間夫婦で入院する事になってしまったのだ。水分補給が不十分だったのか、無理矢理にでもエアコンを付けて見張っておけば…。後悔の念が押し寄せる。

そんな時だ。ケアマネージャーさんが提案してくれた「自宅大改造計画。」エアコンの件のお説教は主治医の先生にお任せして、私達は自宅をより安心して介護のできる場所へと変えましょう、そう笑顔で励ましてくれた。それから退院までの約二週間は何度もケアカンファを行い生活動線を考えながら介護福祉用具のカタログを見て部屋を作りあげていった。

「こんな物まで借りれるとね。」

曾祖父と曾祖母は部屋を見渡しながらい目を輝かせた。転倒防止に取り付けた突っ張り式の手すり、ソファー横の補助手すり、長時間寝ても体が痛くなりくいベッドとマット。私達を呼びたい時のワイヤレスチャイム、曾祖父の三点杖も月々格安でレンタルでき、壁の手すりや入浴の椅子、段差を無くすスロープは一割負担で購入できた。少子高齢化が進む中、本当に有り難い制度だと痛感した。曾祖父母が、祖父母が、両親が、北九州市の人々が納めた税金のおかげで安心して曾祖父母が暮らせる環境作りを行うことができたのだから。税金は、目に見えない形の無い、どこか自分とは無縁な物と感じていたけれど、私の住む町、北九州市を見渡すと普段目にする公園や道路、施設や毎日のごみ出し、美しい町並み、生活のありとあらゆるものが税金によって支えられている。子どもから、曾祖父母のような高齢者まで、みんなが笑顔で暮らせる街づくりを行う税金。人と人との支え合いで明るい未来を作る制度を体感した私は、目の前に広がるこの街をより良くする為に、今日から一步一步前進していこうと思う。いつの日か大人になった時にはきちんと納税をして、今度は支える存在になりたい。

令和4年度 福岡国税局長賞

誇り高き納税者を目指して

北九州市立穴生中学校 三年 花島 妃南乃

私は、三年前、家族旅行で北欧を訪れた。フィンランド、エストニア、スウェーデンの三国を旅して、美しい自然や町並み、おしゃれな家具や雑貨に心を奪われつつ、買い物を楽しむ中で印象に残ったことのひとつが「消費税率の高さ」だった。フィンランドは標準消費税が25%で食料品消費税が17%である。私は、最近、友達と一緒に買い物をしたり外食をしたりする機会が増え、消費税を意識するようになって、10%や8%でも高いと感じている。実際、世論として、消費税率の軽減や廃止の要望、引き上げ反対の声をしばしば耳にする。日本でもこれだけの不満があるのだから、北欧の人々は苦しい生活を強いられているのではないか。

ところが、私が北欧を訪れた年の「国民幸福度調査」を見てみると、なんとフィンランドは一位、さらに、トップ10のうち半数を北欧諸国が占めており、日本はというと58位、これは先進国の中で最低ランクであった。調べてみると、北欧諸国の幸福度が高いのは、社会保障が手厚いことと関係していた。北欧の福祉は「高福祉・高負担」という言葉で表され、これは、「よいサービスを受けるのなら、高い税金や社会保険料を負担しなければならない」という考え方だそう。例えば、フィンランドは教育大国として知られ、大学までは無料で教育が提供される。学力格差を極力なくすことで国全体の力を底上げするのがねらいである。

私たちの住む日本はどうか。令和元年10月、消費税率が8%から10%に引き上げられた。改めて調べてみると、消費税は、現役世代など特定の世代に負担が集中せず、経済活動に対する影響が相対的に小さく、税収が景気などの変化に左右されにくいことから、社会保障の安定資源に適している。また、少子高齢化という壁に立ち向かうため、従来、高齢者中心となっていた社会保障制度を拡充し、子育て世代や現役世代のためにも使えるように「全世代型」への転換を図った。私は、増税分の金額を社会保障に充当していたことを初めて知った。

北欧諸国の国民は、福祉の為に税金を納めることを誇りに思っているそうだ。「自分たちの国は平等で、貧しい人がいない。そんな素晴らしい国を、自分たちの手で創っているのだ。」そういった気持ちで納税している。彼らにとって、税金は「取られるもの」ではない。だからこそ、払いっぱなしにせず、チェック機能をつくって、税金の使いみちを精査しているという。今回、消費税について調べることを通して、私は、税金の使い道や受益の中身についてもっと関心を持ち、正しく知る必要があると感じた。北欧諸国の人々のような、「自分たちの税金が豊かな国を創る」という意識を持ち、自身の行動で税金の無駄遣いにつながることはないかを見直すことが、日本を幸福な国へと導くのではないだろうか。